

平成29年度金沢大学学校教育学類附属学校園連携G P
(附属学校園連携G P) 活動成果報告書

取組名称 (全角20 字以内)	基本運動獲得のための運動プログラムの開発									
	発達段階に応じた動作・運動能力の習得をめざし12年間を見通した運動プログラムづくり									
取組学校等	特別支援学校									
連携学校・学類	学校教育学類				取組期間	平成28年4月～平成30年3月 (3年0ヶ月)				
	附属幼稚園									
ふりがな	つるお ちあき				所属校名 及び職名	特別支援学校 教諭				
実施担当責任者	鶴尾 千亜紀									
電話番号	076-263-5551									
e-mailアドレス	Chiaki-t@staff.kanazawa-u.ac.jp									

1. 取組の活動内容と成果

※取組の具体的な実施内容と成果について、当初設定した目的・趣旨・期待される教育効果に照らし、1ページ程度で分かりやすく記述してください。必要に応じ、図表等を用いても構いません。

※成果物等がある場合は、この報告書とあわせて提出してください。

【実践内容と成果】

○授業実践

〈ラダートレーニング〉全学部の体育の授業で準備運動として実施した。一年を通して継続して取り組み、段階的に動きを複雑化したり運動量を増やしたりして行った。実践と見直しを繰り返し、児童生徒の実態に応じた形のプログラム作りを行った。左右ジャンプ計測器での測定値で中学部では17名中14名、高等部では24名中22名に向上が見られたことから、敏捷性や瞬発力の向上につながっていると考えられる。

〈ミュージック・ケア〉小学部において一年を通して行った。ミュージック・ケアの主な効果として身体機能の促進、発達の促進、身体運動の誘発などがあげられるが、児童の動きの変化として、音楽に合わせて腹臥位や仰臥位、寝返りをしたことで動くことへの抵抗感が減り、限られた狭い空間でもぶつからないように体をコントロールすることができるようになった児童が多くみられた。

〈スポーツテスト〉中学部、高等部で5月に実施した。結果の分析、昨年度との比較を行った。ラダートレーニングとスポーツテストを継続して行っている高等部2・3年生(男子8名、女子6名)の記録では、立ち幅跳びや50m走で記録を伸ばした生徒が14名中11名みられた。また、データをわかりやすく生徒に提示し、体力を高めるために今後どのようなことに取り組んでいきたいかを自分で考えるな

どの振り返りを行った。

○連携

〈OT・PT〉小学部を中心に、身体の動きの特徴的な課題の分析や支援の在り方を考える際に、県リハビリテーションセンターのOT、PTと連携し医療的な立場からのアドバイスを参考に検討を行った。児童の実態の中で「姿勢が悪い」「あおむけの姿勢から片足をあげることができない」などの気になる点について、子どもたちに無理なく毎日積み重ねられる効果的な活動を教えていただき、体育やミュージック・ケアだけでなく学校生活全般に生かして継続的に取り組んだ。

〈附属幼稚園〉6月（年長）11月（年中）1月（年少）で、本校教員が幼児にラダー遊びを実施した。ラダーを初めて見たり体験したりする園児が多く、どのクラスでも興味を持って意欲的に体を動かしていた。ラダーを用いた運動が、幼児にとってわかりやすく、できるという感覚やできたという達成感を得ることに有効な運動であることがわかった。幼稚園教諭へのアンケートから、ラダーについては知っていたが使ったことは無かったという回答があり、実際の活動を見て、「幼児でもいろいろな動きを楽しみながらできると感じた」など今後の活動に取り入れてみたいという声が聞かれた。また、幼稚園教諭ならではのラダーの活用方法の提案があるなど教員の交流もはかることができた。

〈学校教育学類〉連携実施教員と学校教育学類保健体育専修の学生が高等部の生徒を対象として、立ち幅跳びに焦点を当てた授業を行った。立ち幅跳びの動きを4つの局面にわけ、生徒一人ひとりの特性を見極め、その生徒に合った指導、支援を行った。生徒はポイントを絞って練習することで動きを習得することができ記録向上につなげることができた。学生は、特別支援学校の生徒の実態を知ったり、一人ひとりにあった支援方法を考えたり工夫したりするなど双方にとって深い学びの場となった。

○講演会・講習会

「効果的な体力向上トレーニング」～柔軟性や体幹強化などを中心に～

講師 公益財団法人 北陸体力科学研究所 作業療法士 松儀 怜氏

効果的な体力向上トレーニングの講演会、講習会では、教員が柔軟性や体幹力を高めるための効果的なトレーニング方法を学んだ。楽しく取り組んでいるうちに自然と体幹が強化されているなど、本校の児童生徒にとって有効なトレーニング方法を学ぶことができた。

2. 平成29年度の実施計画に対する達成度の自己評価

評価（いずれかに○）	評価の理由
a. 達成できた <input type="radio"/> b. おおむね達成できた <input checked="" type="radio"/> c. あまり達成できなかった <input type="radio"/> d. ほとんど達成できなかった	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程や活動内容の見直しや改善を行い今年度予定していた計画をほぼ実施することができた。 ・附属幼稚園、学校教育学類との連携が充実し、成果を上げることができた。

3. 今後の目標・展望

※今年度の実績を踏まえ、今後の目標・展望を500字程度で記述してください。

- ・小学部では、ミュージック・ケア、ラダーを中心としたプログラムの完成を目指す。また、引き続き作業療法士、理学療法士との連携を行い、外部専門家から得た情報を活かしながら、児童の運動への意欲や心身の発達を促すための実践を行う。
- ・中学部、高等部では体力・運動能力テストの実施を継続して行い、データを比較・分析し課題を明確にする。その際、内科検診で行っている運動器検診の記録も参考にする。
- ・課題解決にアプローチできる運動として、ラダー運動を行い、学部間のつながりも考えながら段階的に動きを複雑化したり、運動量を増やしたりして、12年間を見通した運動プログラムを完成させる。
- ・日本特殊教育学会第56回大会で研究成果のポスター発表を行う。
- ・本校の教育研究会で研究成果のポスター発表を行う。
- ・石川県特別支援学校保健体育研究会で実践報告を行い研究の取り組みと成果を発信する。